

# 研究室から――

## 【ユニヴァーサルデザイン研究会】

研究リーダー  
端山 貢明



### 何故、生涯学習か

なぜ、生涯学習が必要なのか。この問いに一言で簡単明瞭に答えると、それは「人は生涯成長するから」である。

その成長の過程の中で、人は、常に新しい問題に遭遇し、常に新しい問題解決を迫られる。そしてその問題解決ごとに新しい対応の体系が作られ、この体系は、その人の内部に累積し、一度経験し解決した問題に再び出会った時にはほとんど一瞬のうちに問題解決が可能になる。このようにして人は常に新しい問題対応のスキル、体系を獲得し続け成長して行く。これが、生涯学習の本質である。

このように生涯学習とは、人が一生をかけて行う自己実現を支える重要な機能であり、このような視点からそれを見直すところから始めよう。

ここで「自己実現」とは、人類の一人とし

ての自分が、自らの必要性に立って、自分として望ましく存立するために、これだけは自らの上に実現しなければならぬというかけがえのない目標であり、止むに止まれぬ欲求が目指すところのものである。この意味で、人生は自己実現の長いプロセスであり、この過程の正否によって、その人にとっての人生の価値、人生の輝きが変わってくる。

この止むに止まれぬ作業を行わしめているものが、実は、人の遺伝子(Human Genome)人の発生と生成の因子)である。

## 生涯学習

### 新しいユニヴァーサル

### デザインの視点



一人の人が、一個の受精卵として発生したときから、自らの内に宇宙から受けた遺伝子が記述し約束するところの、宇宙にたった一人しかいない自分の固有の存在が、出来るかぎり支障なく実現されることを基本的な存在の権利として、新生児も高齢者も、その自己実現が人類の立場で見守られなければならないのである。これは新しいユニヴァーサル・デザインの視点である。

### 何を学習するのか

環境は、人の遺伝子に、その個体の望ましい存立のための適切な対応を迫る条件の集まりであり、人がこの環境の提示するさまざま

な条件に出会うことにより、それぞれの条件に対応した問題解決の対応策が内部のシステムとして構築され成長していく。よく使われる器官は発達が進むということは知られているが、人の学習に主にかかわる大脳では、それは、神経結合の発達として現れる。

人が外界の事象と遭遇し、その認識、自分とのかかわりの理解、それに基づく受動的・能動的対応、問題解決等を進める諸段階で大脳の神経繊維の結合が進み、出会った事象とその理解に対応した神経結合のネットワークが構築される。外界の事象との出会いが豊富であり、かつ対象の把握・認知にかかわり積極的な思考が行われ、その結果よく使われるようになる大脳は望ましく発達する。

学習とは、ハードウェアとしての神経結合のネットワークと、その上を走り回る情報を構造的に格納し出力する高機能データベースの生成のことである。

そして重要なことは、それぞれの事象ごとに対応して進む神経結合は、そのまま脳システムの中に残り、そこに膨大な知のネットワークを生涯にわたって累積成長させていくことである。これは、外界の写像空間と呼ぶことの出来るもので、愛の深い環境に対応した愛に満ちた反応をする脳システム、文化の豊かな環境に対応した文化の香り高い反応をする脳システム、また恐ろしいことに、悪意の深い環境に対応した悪意に満ちた反応をする脳システムがそこに構築されて行くのである。

人の学習の正否と質は、このような環境の条件に大きく影響を受け、人の生涯、特にその初期、乳幼児期の環境はその人の人として

の生成に極めて重要な要因となることは、この点からも容易に理解されることだろう。

### 自己実現不全と回復請求、 代償請求におけるソリユーション

ここで注目すべき問題は、この環境の条件に欠損があり、その結果その人の自己実現が阻害され、そこに自己実現不全が起こることである。

ここには当然、得べかりし状態への回復請求が伴う。もちろん一〇〇%十全な環境などは存在しないから、人は誰でも多かれ少なかれ自己実現不全に陥るのだが、この回復請求が繰り返して拒絶される場合、後に代償請求として破壊的な形で現れる破たんが起こる。昨今取りざたされている社会的問題の多くは、



ユニヴァーサルデザイン・シンポジウムでの参加者の交流風景

このメカニズムから起こっているものである。ここで、生涯学習がこの問題に対する効果の高いソリユーションとなり得ることに注目しよう。

前に述べた大脳の神経繊維の結合は、生涯にわたって続く。特にさまざまな事象に関心を持ち、常に問題解決に心を使い、自分の方法でさまざまな事柄を考えている人の神経結合のネットワークは人生の終りまで発達を続ける。

このような背景の中で、生涯学習の世界には、家庭、学校等その時まで付き合ってきた環境の中で獲得することの出来なかったものを、その人の主体的なアクセスに対応して、その人にとって必要なものを常に新たに獲得してもらおう可能性が秘められている。これはその人のこれからの生涯における自己実現不全を予防するものとなるだろう。また、既に破たんが起こった場合でも、その人の自己実現不全を綿密にフォローし、不全の歴史をたどり幼少期までさかのぼり、その中で自ら不全を回復し、補償（障害を補うこと）しながらこれまでの生涯を実りあるものに再生する可能性を贈るものとなるだろう。

### 生涯学習は全世代の学習空間

最後に、生涯学習のひとつの大事な機能に触れよう。生涯学習は人の生涯に付き合い寄り添うシステムである。そこには、人の生涯の歴史の各部分それぞれの必要性に対応する機能が備えられていなければならない。もしそれが実現されているとすると、そこは、あらゆる世代が出会う空間となるだろう。旧来

の教育体系のように狭い年齢別に仕分けられ、異常に貧困な社会の中で勉強だけをするのではなく、関心領域によって集まる深い年齢層を持った学習空間が出来、学習テーマ領域にとどまらず異なる年齢の人々が相互に文化を提供しあい、学びあう、非常に効果の高い自己開発、自己実現が可能となる。これが生涯学習が開く新しい社会的機能である。

私は今、山形で得た優れた友人たちと、人の存立を支援する機能空間の実現を目指して、ユニヴァーサル・デザインの原理から実行の現場までを勉強・実践する研究会を開いている。この研究会には胎児から高齢者までの参加があり、真剣な討議、研究、フィールドワークが行われ、たくまげずして生涯学習、全世代学習の現場となっている。

本稿で触れたものは非常に重要な大きなテーマであり、読者の皆さんとも膝を交えて語りあいながら、問題の解決の方向を見極める機会をぜひ持ちたいと願っている。

#### 端山 貢明

東北芸術工科大学名誉教授  
〒243-0001 厚木市東町 1-12-704  
1932年 東京生まれ  
1955年 芸術祭文部大臣賞受賞  
1956年 東京芸術大学音楽学部作曲科卒業  
1957年～1959年 パリ・コンセルヴァトワールにて音楽の研究と同時にソーシャル・ダイナミクス(社会動学)を研究  
1972年 コンピュータ・アート・センター設立  
1974年 ソシャル・ダイナミクス研究所設立  
1993年 東北芸術工科大学教授(情報環境学)  
山形創造NPO支援ネットワーク理事  
TEL 046-295-8585